

What Students Learn from Market Experiments
and
What They Don't
(報告要旨)

灰谷綾平

京都産業大学大学院経済学研究科博士後期課程

小田宗兵衛

京都産業大学経済学部

本稿は、経済実験による経済学教育の効果と限界を論じる。経済実験は、いまや経済研究の有力な方法の一つとして認められているが、経済学教育との関わりも深い。しかし教育実験への参加は、学生たちの満足（面白かった）と主観的な習得感（勉強になった）を高めるが、経済学の客観的理解を必ずしも高めない。そこで著者たちは、京都産業大学経済学部のミクロ経済学の講義のなかで組織的に市場実験を行うとともに、学生たちの意識と理解を確かめるためのアンケート調査と試験を行った。その結果、学生たちの実験の体験は必ずしも経済学の理解の深化にはつながらないことが確認されるとともに、既存の経済学教育の限界と学生たちの経済学理解の困難についての知見が得られた。本稿はそのまとめであり、実験による経済教育の効果と限界を明らかにする。